

# 『舞妓の夢』

一、<sup>あか</sup> 赤い <sup>けだ</sup> 蹴出しが <sup>おさな</sup> 幼さ <sup>かく</sup> 隠す、<sup>かわい</sup> 可愛い <sup>きょうと</sup> 京都の <sup>しんまいまいこ</sup> 新米舞妓、  
<sup>しこ</sup> 仕込みの <sup>しゅぎょう</sup> 修行も <sup>ぶじ</sup> 無事に <sup>お</sup> 終え、<sup>きょう</sup> 今日 <sup>みせだ</sup> は見世出し、<sup>は</sup> 晴れ <sup>すがた</sup> 姿、  
<sup>おさな</sup> 幼い <sup>ころ</sup> 頃から <sup>あこが</sup> 憧れた、<sup>ふりそで</sup> 振袖、<sup>おしろい</sup> 白粉、<sup>わ</sup> 割れしの <sup>ぶ</sup> ぶ、  
<sup>かがみ</sup> 鏡に <sup>うつ</sup> 映った <sup>すがた</sup> その <sup>ゆめみ</sup> 姿、<sup>きょうと</sup> 夢見た <sup>まいこ</sup> 京都の <sup>まいこ</sup> 舞妓さん。

二、<sup>おきや</sup> 置屋の <sup>かあ</sup> 母さん、<sup>やさ</sup> 優しさ <sup>かく</sup> 隠し、<sup>きび</sup> 厳しい <sup>しつけ</sup> 躰はこの <sup>み</sup> 身の <sup>ため</sup> 為に、  
<sup>う</sup> 産みの <sup>はは</sup> 母にも <sup>ま</sup> 負けぬ <sup>せ</sup> ほど、<sup>わ</sup> 世話 <sup>や</sup> 焼く <sup>なさ</sup> 情けの <sup>あ</sup> 有り <sup>がた</sup> 難さ、  
<sup>よ</sup> この <sup>ふ</sup> 世で <sup>しぎ</sup> 不思議な <sup>えん</sup> 縁を <sup>も</sup> 持ち、<sup>きょうと</sup> 京都で <sup>おやこ</sup> 母娘に <sup>むす</sup> 結ばれた、  
<sup>ふたり</sup> 二人の <sup>はは</sup> 母 <sup>しあわ</sup> 持つ <sup>し</sup> 幸せを、<sup>ひ</sup> いつか <sup>く</sup> 知る <sup>く</sup> 日が <sup>く</sup> きつと <sup>く</sup> 来る。

三、<sup>あか</sup> 明るい <sup>えがお</sup> 笑顔に <sup>おさな</sup> 幼さ <sup>のこ</sup> 残す、<sup>かわい</sup> 可愛い <sup>きょうと</sup> 京都の <sup>しんまいまいこ</sup> 新米舞妓、  
<sup>ゆめ</sup> 夢は <sup>すてき</sup> 素敵な <sup>げいこ</sup> 芸妓さん、<sup>きょう</sup> 今日 <sup>けいこはげ</sup> もお稽古 <sup>ま</sup> 励みます、  
<sup>おど</sup> 踊り <sup>おど</sup> 踊る <sup>みじゆく</sup> は、<sup>うた</sup> まだ <sup>からだ</sup> 未熟、<sup>ま</sup> お唄に <sup>ま</sup> 体が <sup>ま</sup> 舞って <sup>ま</sup> こそ、  
<sup>つら</sup> 辛い <sup>けいこ</sup> お稽古、<sup>なみだ</sup> 涙 <sup>ひ</sup> 出る <sup>あおぞら</sup> 日は、<sup>み</sup> 青空 <sup>ふるさと</sup> 見つめて <sup>ふるさと</sup> 故郷 <sup>ふるさと</sup> 想う、<sup>ふるさと</sup> 故郷 <sup>ふるさと</sup> 想う。

## ※用語の解説

蹴出し……関西では裾除け(すそよけ)とも言う。腰巻きの上に着ける装飾用の下衣。  
舞妓さんや芸妓さんが移動する際などに着物の裾を持ち上げた時に見える。

新 米……なりたて。新人。

仕込みの修行……舞妓に成るための半年から1年の教育期間。この間に舞妓になるための言葉・作法・踊り・和楽器・茶道・華道・雑用などを習得する。  
この期間中に希望者の三分の二が挫折するとされている。

見世出し……仕込みの期間が終了し、舞妓としてお披露目される晴れの舞台。

振り袖……舞妓さんが着ているのは、裾が長い「お引きずり」と呼ばれる物。

割れしのぶ……舞妓さんが初めて髪を結う時の髪型。経験年数などによって結える髪型が決まっている。

置 屋……舞妓さんが居住する所。ここからお茶屋さんなどへ派遣される。

お母さん……置屋の女将(おかみ)。舞妓さんの教育から身の回りの世話までを行う。  
文字通りに第二の母的存在。

芸 妓……舞妓は芸妓になるための見習い期間。芸妓になって一人前となる。